

平成30年度豆類振興事業助成金(試験研究)の成果概要の要約

⑨課題:道東の早生小豆栽培地域における生産安定性の向上(28~30年度)

代表者:(地独)北海道立総合研究機構北見農業試験場研究部 主査 萩原誠司

目的

道東での早生小豆品種の栽培をより安定多収化させるため、①オホーツク地域における適正栽植密度指針を確立するとともに、②十勝中央部における秋まき小麦前作物としての安定栽培法を検討する。

成果

①オホーツク地域における適正栽植密度指針の確立

・「ちはやひめ」は密植により増収傾向となったが、「きたろまん」は判然としなかった。収量は、「ちはやひめ」がやや低収であった。

②十勝中央部における秋まき小麦前作物としての安定栽培法

・十勝地域中央部では「ちはやひめ」が「きたろまん」より早熟で、両品種とも密植による若干の早熟化傾向があった。

③道東地域における早生小豆の安定多収栽培法の実証と評価

・平成29年オホーツク地域産原料を用いた小豆加工試験(つぶあん)を2地域で行った結果、「ちはやひめ」は対照品種並以上の高い評価となった。

※標準播種量:16,700本/10a、1.2倍密植:20,100本/10a、
1.5倍密植:25,100本/10a、を目標とした

北見農試栽培試験成績(抜粋)

品 種 名	播 種 量 (本/10a)	栽 植 密 度 (月・日)	成 熟 期 (月・日)	生 育 日 数	子 実 重 (kg/10a)	標 植 対 比 (%)	百 粒 重 (g)	屑 粒 率 (%)
きたろまん	16,667	10.16	10.16	147	380	100	17.9	12.5
	22,222	10.15	10.15	146	359	94	18.1	13.9
標 播	25,063	10.15	10.15	146	380	100	18.9	12.9
	33,333	10.13	10.13	144	395	104	16.2	8.9
ちはやひめ	16,667	10.16	10.16	147	371	100	18.0	12.6
	22,222	10.14	10.14	145	380	102	18.0	10.5
サホロショウズ	25,063	10.13	10.13	144	396	107	17.9	8.2
	33,333	10.12	10.12	143	381	103	18.2	7.8
きたろまん	16,667	10.12	10.12	143	341	-	16.8	9.0
ちはやひめ	16,667	10.17	10.17	135	358	100	17.9	13.2
	25,063	10.16	10.16	134	371	104	17.6	13.3
標 播	16,667	10.17	10.17	135	373	100	17.5	12.6
	25,063	10.15	10.15	133	354	95	17.8	12.2

注1) 生育日数:播種翌日から成熟までの日数。

十勝農試栽培試験成績(抜粋)

品 種 名	播 種 量 (本/10a)	栽 植 密 度 (月・日)	成 熟 期 (月・日)	生 育 日 数	子 実 重 (kg/10a)	標 植 対 比 (%)	百 粒 重 (g)	屑 粒 率 (%)
きたろまん	16,667	9.16	9.16	115	276	100	19.9	14.4
	25,063	9.15	9.15	114	291	105	19.1	18.1
標 播	33,333	9.14	9.14	113	307	111	19.0	26.7
	16,667	9.13	9.13	112	264	100	19.0	12.2
ちはやひめ	25,063	9.11	9.11	110	293	111	18.4	14.5
	33,333	9.10	9.10	109	287	109	18.2	20.5
きたろまん	16,667	10.11	10.11	126	333	120	18.4	4.2
	25,063	10.09	10.09	124	352	127	18.3	4.6
標 播	16,667	10.07	10.07	122	313	119	17.9	4.1
	25,063	10.03	10.03	118	313	119	18.4	5.8
きたろまん	16,667	10.19	10.19	120	291	105	18.8	11.7
ちはやひめ	16,667	10.18	10.18	119	238	90	17.5	11.5

注1) 生育日数:播種翌日から成熟までの日数。